

7100

愛世二兵第一五一號

昭和三十三年五月十四日

愛媛縣古語課第二復員科長

死歿者調書

申告者

元陸軍伍長

死歿者

所轄 岩 畠 氏

名

已分病名年月日

住所

羅根 一 水

病死 某 天 月 日

遺 告 書 遺 族 氏 名

佐世保地方復員殘務處理部

137-11

73

整理番号 NoA-102

69122

				21.	死 年同日	部長
				4-5	死 死	課長
				延	死 死	C 費
				吉	死 死	毒
				病	死 死	認定係
				死	死 死	7/5 起
				死	死 死	83
				死	死 死	
				死	死 死	
				死	死 死	
				死	死 死	
				死	死 死	
				死	死 死	
				死	死 死	
				死	死 死	
				死	死 死	

まがはら便所

信 区

市下山手町

地方復興局

認定人 A 班

米山局

中

83-10

資料や確実なる死後者要理察

7/5 起

卷五

[REDACTED]

此乃所參

右の通り承知し、おたふす中、おたふす願祖の他人より聞けた

昭和二十五年一月十日

申告書の			
入籍番號	本籍地	現住所	所属部隊
		今右	鎮防
等級	二曹	氏名	

備考

- 一 本調査は死没者の身上関係一切を處理するものであるが、慎重に詳細に記入し、下馬
- 二 他人より聞か承知した事項は其の旨末尾の餘白に記入し、下馬



死亡は、はかりせず、結核病棟担任、衛生助手、
方知人より聞か承知した、腐病院解散と他病院に
移動中に忙し、時聞のため、詳細は、わからない、
死、その、
聞、は、
年、
128-12

忠

死亡現認證明書

昭和三年七月廿三日 朝製

死亡場所 滿洲延壽軍醫院

昭和三年四月八日

病名 兼養失調症

昭和三年二月丁

遺言 遺言 現認 葬

現認 昭和三年二月丁 死亡者 國子

認 業務上責任者あり 特上埋葬 慰靈式 毎日執行 其間

理由 昭和三年二月丁 名簿 現在 慰靈式 毎日執行 其間

由

經 齊藤 部隊 滿洲步兵二八二聯隊

明 本 籍 地

附 現 住 行

附 現 住 行 陸軍 伍長

鹿

島

總領

事實
死亡
證明書

本籍地
所屬部隊
（昭和）



徵集年

官等
職上兵
姓名



右者昭和二年四月五日

明治陸軍於其兵失

「歸來亡」
（昭和）
證明書

昭和二年十月五日

職等
姓名



昭和二年
月
日
曾多上

211
132
49-10

昭和三年十月十一日

佐人第二節・一五。

昭和三年十月十一日

佐原地官復員局人事部長

殿

改選者佐所氏名に關し件照會

此令弟 殿は元鎮海海軍監務府附として勤務中滿州病院に於て死せられた事は過般の回答に依り判明し、此部には所屬部派より何等通知を蒙り、且目下状況調査中であり、又此部は此多數の貴殿に承知の範圍に於て記事項を主として急當部調査係宛に通知する。

徳

県

記

改選戦友の後所氏名戦友より通牒文の内容(寫しをす)

一、此令弟死す年月日病名等其の他事務処理上参考となるべく

佐原地官復員局

事項

上
水

[Redacted]

[Redacted]

終

無慮の手紙をかりすみせん
下されし生存の模様を否か
結う候 死亡月日も本人
所屬部隊を良し市調査
確實より市通 信下し小度
若し四月二十五六日頃上り居

人事部長殿

[Redacted]

通信文のあらまし（三十七日）

親友

拜啓中秋の候と相成り皆様にはお元気で食糧増産に勤んで居られ
る事と思ひます突然に手紙を差上げしをお驚きの事と思ひます
実は小生、[redacted] 君とは横須賀の通信学校より一所の所で教育されまた
内務班の一諸々班でいた教官等からも奥面目な子だと言はれいつかはあ
うれおすたそれでは君の母上さんが亡くお水で歸有され年事によ
知る居ます思へばよく此のうい軍隊とはいふものだ [redacted] 君初め此の
同年兵でよく泣いたことはあります、今通信学校卒業後は羅津通信隊
に勤務を命ぜられて行きました、勤務途中の面白かった事ほどあ、思へば
樂うかつです、それが今は [redacted] 君の靈は天国に行かれたとす、今うそ見た
いやす、羅津通信隊からは今又分遣隊に派遣された、こゝで毎夜泣
いてゐる、あゝ残り残酷な事と忍びません、毎夜よく泣いた物
や想ふ、その後あの終戦です、小生等は其の時は北鮮の元山に居ました

徳

L 22-19

卷之五

三國志

到佐所

九羅新特別根據地

昭和二十年二月

三民

974

R10

劍池地名

1992

10

1998

鹿兒島縣

死亡の時刻	昭和二年四月十七日死亡の所	東清 延吉廳角 （死亡原因） 病死
死亡時の状況		
石の廻り承知してゐますから申告いたします。		
申告の旨	等	氏名
本籍地		
現住所		
所屬部		

100-10

姓名 〇-115 書 覺		性別 男		年齢 21		職業 学生		籍貫 鹿兒島県		入院 1944-10	
病名 肺炎		診断 胸膜 肺炎		経過 1		検査 胸部X線		治療 抗生薬		結果 治癒	
入院 1944-10		退院 1944-11		経過 1		検査 胸部X線		治療 抗生薬		結果 治癒	
入院 1944-10		退院 1944-11		経過 1		検査 胸部X線		治療 抗生薬		結果 治癒	

華ノ月ノ日
 鹿兒島県

現認證明書

本籍地

原住所

所屬隊

本籍地ニ同シ

旅順陸軍病院(関東軍第二陸軍病院)所屬

旅順方面特別根據地隊附

海軍衛生中尉

宮崎

戦場(脳髓露出)ヲ受ケ即死セリ他ノ輕症患者ハ休憩

ヲ命ゼラレシ爲概テ十五米距テタル低地ニ在リテ休憩中ナリ

爲損傷ヲ免レタリ

右昭和五年九月一日ノ軍令ヨリ旅順陸軍病院ニ合併同年

十月至七月海城東矢營ニ移駐本年四月中旬以降病度長

命ニ依リ白舌ノ急東矢營町空地ヲ農作地ニ開墾セリ偶々

五月五日輕症患者十五名ヲ指揮シ耕作中十時三十分頃敵砲

彈没中ノ不發手鎗聲ニ繼ぎ爆發頭部胸腹部右大腿面下

ニ命中シ即死セリ

爲損傷ヲ免レタリ

右現認ス

昭和三十一年五月五日

現認者

入院患者

陸軍上等兵

旅順陸軍病院附

陸軍衛生中尉

白話主任

同

丸之檢認者

陸軍軍醫中尉

右不發彈ハ四月廿日中華民國內軍海城入城時同地東矢焚
ニ在リシ入路軍ト交戦時数發落下セシ其ノ中半数
不發彈ナリシモノニテ本彈ニヨリ受傷セリヲ
證明ス

昭和三十一年五月五日

旅順陸軍病院第二半部長

陸軍軍醫大佐

旅順
陸軍病院

人正印

沒蒼調書

本籍地

舒長

與諸部長古

卷之五

所屬部隊亦順方面特別根據地隊區務科

役種應見

異種

衛 氏

官等

海
齋
中
尉

卷之三

入籍
不明

欽定四庫全書

昭和七年四月十日

勤務，概是

不明

使陽春納

昭和三年五月五日

愛傷却病然

頸部胸膜部在上膊部下肢爆創（撥擊器毆打）

宿願長，命三子自西名。鉅野荒者甚，乃相擇之。庸作中，十時
三子乃俱。飲先探次中，市幾平幣殫，歸。叩腹節。

宮縣

進

真

死時ノ状況
此年八月朔日

右腰面下股ニ煤創ヲ為シ即死セリ 公署知

昭和十一年五月五日午前十時三十分海軍海城東芝ノ足

記事

遺骨 遺留品ハ示致ス
接奉 級部より在申ヨリヨリ付
本人ノ遺骨ニ

右申 告ス

昭和十一年 六月拾四日

由本籍地	告取部先	考所属部隊	氏名
------	------	-------	----

右同

旅順方面特別根據地隊

官等 級海軍佐尉大尉

入籍番号

ナシ

終

176-12

本籍地

現往所

157

右

所屬部

羅津時振

入國年月

第 一 冊

役種

圖式

矢種

官等級

—

水

氏
生年月日

入籍金號

宣統元年正月

子

३३

默施到着年月日

不

22

勤勞の概要

維我時方以羅澤特根勳務之戰軍。為宣佈に願ふ也。(至事十書音)
延者に於てハ、助軍に於てハ、辨人の家由て要ありは從事中(至事十書音)

附錄(卷之六)

癸卯夏陽華月日

7.

8A

病受受傷部位

紫

食

失
同

葉病(受傷)は

1

明

死亡年月日

昭和平年五月國平各村にて死之